

## 生物図鑑

### 小さな戦術家

カタクチイワシは、河口堰周辺の過去5年間の魚類調査において、約1,000尾確認されています。煮干などに利用され、日本近海に棲息するポピュラーな魚です。頭部の片方に口が寄っているため、片口鰯(カタクチイワシ)という名で呼ばれています。

片口鰯の体長は10~20センチ程度で、プランクトンを食べて成長します。サメ、クジラなどの海生哺乳類に捕食され、海の世界連鎖の土台として重要な種となっています。

しかし土台であるといっても、黙って捕食されるばかりでは、片口鰯も面白くないでしょう。彼らは、身を守るための技術をもっています。たくさんの片口鰯が密集することによって、お互いの動作を同調させることができます。一匹が回避動作にはいると、同調して群れごと逃げます。こ



河口堰で確認されたカタクチイワシ

れは、片口鰯に限らず、他の小魚にもみられる防衛策です。

群れはベイトボールと呼ばれています。

ベイト:baitは、餌という意味なので「餌玉」となります。片口鰯の気持ちに反して皮肉な名前ですね。もっとも、そう呼んでいるのは人間ですけども。片口鰯にとっては、海中で襲ってくるサメや、水面で襲ってくる鳥より、人間が一番たちの悪い天敵なのかもしれません。片口鰯の漁獲高は大変多いですから、彼らは人間に対抗する技術を日夜検討しているかもしれませんね。

## イベント案内

### 出羽の海部屋 笹川夏合宿

今年も出羽海部屋の笹川夏合宿が諏訪神社で8月9日から20日まで行われ、早朝からの力士の激しい稽古の迫りに大勢の観客は目を奪われていました。

また14日には、わんぱく力士の稽古があり、大きな力士に一生懸命むかっていく、わんぱく力士がとても可愛らしかったのが印象的でした。

この合宿は、天保水滸伝の利根の河原に任侠の華と散った主人公の笹川(岩瀬)繁蔵が相撲好きであったのは勿論であるが、水害・冷害で困窮した農民救済のため秋季大祭の奉納相撲に

合わせ、天保13年7月27日に相撲の神と言われる野見宿禰の石碑を建立し、その落成式で花会を開催したと伝わり、「笹川の相撲祭り」又は「繁蔵まつり」とも言われる、この歴史と伝統のある、笹川諏訪神社の土俵で大相撲出羽海部屋の朝稽古を見ることが出来たら素晴らしいとの思いで始められたそうです。



熱の入った稽古風景

## 編集後記

※ 利根川下流沿川紀行は都合によりお休みさせていただきました。

私事ではありますが先日、地元の子供御輿を手伝ってきました。この子供御輿は、通常5月に行われるものなのですが雨のために中止となり、それでは子供達の思い出が減ってしまうと地元の方々が協力し、9月に行っ

たものでした。私自身、昔ながらの地域のつながりを深める、このような催しに参加した経験が少ないため、参加できてとても嬉しかったです。また、子供達のためにもこのような催しを大切にしていかなければいけないと改めて思いました。

## 地域を守る潮止堰

# 河口堰だより

第21号

発行所  
独立行政法人 水資源機構  
利根川下流総合管理所  
利根川河口堰管理所  
Tel 0478-86-0477

利根川河口堰ホームページアドレス  
<http://www.water.go.jp/Kanfo/foneKako/index.html>

平成20年 9月

## 地域・ユーザーの声

### インタビュー

小見川俳句連盟  
会長  
佐藤 泰之



河口堰だよりでは、黒部川流域や周辺においていろいろな活動をされている団体に、インタビューし、それを記事としています。

今回のインタビューは、小見川俳句連盟会長の佐藤泰之さんにお話を伺いました。

○小見川俳句連盟の設立と構成人員について  
昭和43年に40~50名の会員により発足し、現在20~30名の会員を有しております。

○活動と年間計画について  
月1回の割合で定期的な勉強会を実施していましたが、現在は月刊誌「いづみ」の発刊により、誌上勉強会としています。

この他に年2回(新年・文化祭と句碑まつり)の大会を5市2町(香取市・旭市・鏡子市・神栖市・潮来市・多古町・東庄町)で実施しており、今年も間もなく(9月28日)行う予定です。また小見川文化協会(俳句部)としての活動も行っています。

さらに、年1回の社会勉強を兼ねた吟行会(訪れた地での俳句会)は県内外を問わず行っています。



小見川俳句文学公園の句碑

○小見川俳句文学公園にある句碑について  
句碑は、小見川少年の家やふれあい橋と同時期の平成5~10年に15基を建てました。句碑は、当時活躍されていた連盟の会員の他に芭蕉や蕨村の句碑もあります。

○黒部川や地元小見川との関わり・活動について  
公園や城山にある「六十二人句碑」の清掃や維持管理を積極的に行っていましたが、会員も高齢となり、現在は2箇所の清掃と定期的な維持管理を行っています。



城山の句碑

○利根川河口堰について  
河口堰の潮止堰としての役割やその効果は理解しているし、河口堰が出来る前の堰害についても知っている。  
貴重な時間を拝借し、有り難うございました。



副会長の小林さんと一緒に

## 短信・河口堰

### 河口堰フェスタ2008の報告

8月2日(土)に利根川河口堰管理所は、同じ東庄町内にある千葉用水総合事業所東総管理所と合同で、施設内を一般開放し、「地域を守る潮止め堰・利根川河口堰」の役割をPRするとともに、地域に親しまれる水資源開発施設を目指し、「利根川の恵みがもたらすもの」をテーマに「河口堰フェスタ2008」を開催しました。

来場者は昨年の250名を上回る約350名を記録しました。



今回も大盛況!!

今年は、新たな取り組みとして地元東庄町の観光事業との共同開催となりました。

フェスタでは、3隻の巡視船による船上施設見学・普段は入れない操作室見学・持参していただいた水などの水質検査体験・3種類の雨を体感する降雨量体験とともに、河口堰・東総用水の役割や利根川・荒川上流ダム群の説明をパネル展示やビデオ上映で行いました。



巡視船に乗って施設見学

また、親水コーナーでは、シャボン玉・ヨーヨー釣り・水鉄砲作り・ボール投げと小さなお子さん

でも遊べる工夫を凝らし、子供さんから好評を得ていました。



水鉄砲は上手に出来たかな?

東庄町ブースは、カキ氷・綿菓子・缶ジュース・弁当などやあかね米の試食・野菜の販売を行い、その場で食することができることから家族連れで賑わっていました。

特にイベント当日は暑かったこともあり、カキ氷の売れ行きが良かったようでした。

会場内では、間近に見える水門の大きさに驚く親御さん、初めて波間を進む船に乗ってはしゃぐお子さん、案内役の職員の説明がおもしろかった、また来年も来たいと言って頂いた親子連れが多くおられ、例年になく好評をはくしておりました。



真剣な眼差しで水質検査体験



ゲリラ豪雨をリアル体験

また、風船が買えるスタンプラリーや、この日から開始した河口堰のダムカードの配布も好評でした。



大きなシャボンに大喜び

このイベント会場に、千葉TVによる「市町村街かどクイズ」も訪れ、来場者にインタビュークイズを行って、会場を盛り上げていました。



千葉テレビのインタビューも

この他に、水の週間になんで近隣の小学校4・5年生を対象に「身近にある水の作文・図画コンクール」の募集を6月末までに行い、イベントに先立ち、入賞者の表彰を行いました。

なお、入賞者の作品は、展示ホールに飾っております。



入賞者と記念撮影

アンケートでは、はじめて河口堰に来られた方が多く、河口堰の役割がよくわかったと言う方が昨年と比べ2割増しとなったことから、「地域を守る潮止め堰・利根川河口堰」の役割もPR出来たのではないかとスタッフ一同、広報・準備に努力を惜みず頑張ったかいがあったと胸をなで下ろしております。

ご来場下さった皆様、本当にありがとうございました。来年もお待ちしております。

